

「挑戦」とは具体的に自分から何かを率先して行ったり参加したりすることを指しますが、私はその「挑戦」することが苦手です。今回はなぜ私が「挑戦する」ことが苦手なのか、そしてどのようにそのことを克服すればよいのかを考えてみました。

まず、なぜ私は「挑戦」することに抵抗を覚えるのでしょうか。それは失敗を恐れるからだと思います。例えば、授業中に先生に質問したいと思うことがよくあります。しかし、私はそこで思い止まってしまいます。もし私がここで質問したら、私の周りの人たちは私のことをどう思うだろうかと考え、また、よく分からない質問をして悪い印象を持たれたらどうしようかと不安になります。結果として「挑戦」する勇気をなくしてしまうのです。このように、授業中に発言することも含め、学校生活ではまさに「挑戦」の連続であり、それらはほとんどの場合誰かが見ていると考えられます。つまり失敗を恐れるのは周りからどう思われるかを気にするからなのです。しかし、そのことばかり気にしていれば何事に対しても「挑戦」することはできません。私は人からどう思われようと自信を持って「挑戦」できるようになりたいと思いました。

しかし、わざわざ人の目線を気にしてまで恥ずかしい思いをする可能性がある「挑戦」をしたくない、できなくてもよいと思う人もいると思います。

私はある教材を読んでいて荒川静香さんという方を知りました。荒川さんは元フィギアスケーターで現在は日本スケート連盟副会長として活動されています。また2006年のトリノオリンピックで金メダルを獲得されたことで有名です。メダルを獲得するためには難しいジャンプを決めることが重要視されていた中、荒川さんは美しい動きをすることを心がけたそうです。つまり観客がどう考えようと荒川さんは自分らしい演技をすることに「挑戦」したのです。そして私たちは、世代を超えてその演技に心を動かされているのです。私が何か「挑戦」することで誰かが感動したり誰かの心に残るのなら、私の「挑戦」には深い意味があるのだと実感しました。

では自信を持って「挑戦」できるようになるには何をしたら、また何を心がけたらいいのでしょうか。私は主に二つあると思います。一つ目は目標を立てることです。どんなに小さなことでも構わないので、自分の中で「挑戦」したい事柄を具体的に決め、さらにそれを「挑戦」するにあたってどうすれば成功するのかを考えます。何も考えずに行動するよりもずっと自信がつくと思います。二つ目は誰かが自分の「挑戦」を理解することです。私は夏休みにエンパワーメントプログラムというものに参加しました。このプログラムでは留学生の方と英語でディスカッションしたり、英語で発表したりと私にとってはとても刺激的な経験となりました。その中で自分の夢について発表するという企画がありました。私は発表に向けた効果的な話し方を心がけました。しかし、本番には緊張のあまり話し方がゆっくりになってしまいました。それでも発表が終わったときには、沢山の拍手をいただけてとても嬉しかったです。私は人前で英語を話すという大きな「挑戦」をして、沢山の拍手をいただくこと

が出来ました。つまり誰かが私の発表に少しでも理解してくれて、心を動かされたということは、私にとって大きな自信となりました。この自信が次の私の「挑戦」を導くものだと思います。この感話を生かして、新たな「挑戦」ができるように日々努力し続けたいと思います。